

図書館だより 1月

ワシントン日本語学校図書館 (tosho@wjls.org)
開館時間 8時50分～4時

令和8年1月号



新春、新しい冒険のはじまり！

あけましておめでとうございます。みなさんは冬休みをどのように過ごしましたか。
今年は午年です。馬は、前に進む力やがんばる気持ちを表すといわれています。自分のペースを大切にしながら、一歩ずつ進んでいける一年になりますように。
新しい年が始まり、冬の寒さも一層厳しくなりましたが、図書館では温かな本の世界が広がっています。
寒い日にはぜひ図書館に足を運んで、心温まる物語に触れてみてください。今年もたくさんの本と出会い、発見したり、感動したり考えたりと心ゆたかに過ごしたいですね。今年もどうぞよろしくお願いいたします。



人気シリーズ貸出のご案内

「サバイバル/タイムワープ」「発明/実験対決」「漫画」「どっちが強い!?」「最強王」については、生徒1人につき1冊までの貸出とさせていただきます。放課後に棚に本が残っている場合は、保護者の方にも貸出いたします。多くの生徒に読んでもらえるよう、ご理解とご協力をお願いいたします。



私物図書をお預りしています

図書館では間違って返却された個人の本、他の図書館で借りられた本をお預かりしています。お心当たりのある方は、職員に声をおかけください。

★図書館で1ヶ月保存し、お問い合わせがない場合は寄贈扱いとさせていただきます。



12月人気ランキング

あしなが文庫

1 ルルとララのふわふわオムレット/ あんびるやすこ
うどんねこ(1) / スケラッコ

2 怖い!? あざとい!?
ちょっと意外なかわいい生きもの/ 今泉忠明

3 イン・ザ・メガチャーチ/ 朝井リョウ
8番出口 / 川村元気

作家

絵本シリーズ

1 恩田陸・朝井リョウ

1 「パンどろぼう」シリーズ

2 知念実希人・東野圭吾

2 「いちにち」シリーズ

3 町田そのこ・汐見夏衛

3 「コンガラガっち」シリーズ

12月の貸出状況

貸出利用者
生徒 778人
保護者 360人

貸出冊数 3,452冊

冬休み前に
借りた本は
10日にすべて
忘れずに返却して
ください。



今月の 特集

笑門には 福来たる

ページをめくるたびに、思わずクスッと笑ってしまう本を集めました。大声で笑わなくても大丈夫。ちいさな笑いが心をふわっと軽くしてくれます。勉強や毎日の生活でちょっと疲れたとき、気分を変えたいときにぴったり。読むだけで元気がわいてくる、そんな一冊を見つけてみてください。そして、2026年の干支は「午（うま）」です。人と馬の温かなつながりを描いた物語や、馬の魅力が感じられる本を集めました。



『バナナじけん』高畠那生 (BL出版)

くるまから、バナナがひとつ落ちました。そこへさるがきて、バナナをはっけん！どうするとおもう？ もちろん、パクッ！そして皮をポイッ！すると、そのあと……。 (対象年齢；4歳～)



『らくごえほん てんしき』川端誠 (KADOKAWA)

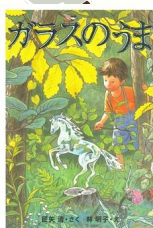
子どもは、しらないことばかりです。だからしなくても、すこしもはずかしいとおもいませんが、大人になると、しらないことが、はずかしいことになるのです。ですから、しったかぶりをしたり、てきとうなことをいってごまかしたり…。ある日、「てんしきはるか？」と医者にたずねられた和尚。一体何のことやら、さっぱり分からない。それでも和尚は「ありません」と答え……思わず知っているふりをしてしまった和尚に、いたずら好きな小坊主がとった行動とは？ (対象年齢；4歳～)



『おはなしだいどころ』

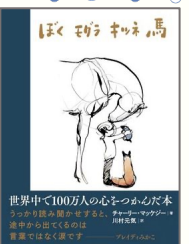
さいとうしのぶ (PHP研究所)

ほうちょう、スポンジたわし、フライパン。にくじゃが、うめぼし、カレールー。台所にある道具や食べ物たちが、にぎやかに活躍する愉快な一口童話が30話。あなたの家の台所でも、食器や野菜がヒソヒソと話をしているかもしれませんね！ (対象年齢；低学年～)



『ガラスのうま』征矢清 (偕成社)

自分のせいで足をおったガラスの馬を追いかけて、すぐりはガラスの動物たちの世界へ飛びこんだ！ 幼年向け冒険ファンタジー。 (対象年齢；低学年～)



『ぼく モグラ キツネ 馬』

チャーリー・マッケジー (飛鳥新社)

ぼくは、モグラとキツネと馬と、旅に出た。そこで見つけた本当の“家”とは。「読む度にこわばった心がほぐれていきます。ずっとそばにいてほしい作品です」 Official髭男dism 藤原聡 (対象年齢；8歳～)



『ドキドキッ小学校〈5時間目〉おわらいMAX 5つのおはなし』川北亮司 (文溪堂)

4時間目、おなかは、もうペコペコ。そこに、ただよって来たカレーのにおい。みんなの頭はもうカレー色になって… (『カレーが食べたい!』)。読むと思わずおなかをかかえて大わらい。ユーモアたっぷり5つのお話。ドキドキッ小学校は、毎日ドキドキワクワクタイクツなんか、してられない！ (対象年齢；中学年～)



『ユニコーン奇跡の救出』

メアリー・ポープ・オズボーン (KADOKAWA)

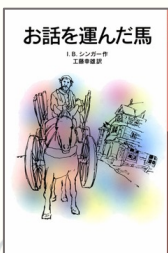
ジャックとアニーに四つめの使命がくだった。それは、一九三八年のニューヨークに行き、数百年ぶりに目覚めるといふ「世界最後のユニコーン」を助けだすこと。厳寒のセントラルパークに着いたふたりを待ちうけていたのは、なんと観測史上最悪の猛吹雪だった一。 (対象年齢；中学年～)



『かむもかまぬも神だのみ』

めちゃへんな早口ことば 大谷健太 (小学館)

個性的なイラストとともに繰り出される、前代未聞のヘンテコ早口ことば。数々のバラエティ番組で注目を集め、SNSでも話題となっているフリップ芸人、大谷健太のオリジナル早口言葉が児童書になりました。友達や家族といっしょに、さあ挑戦！「噛んじゃった！」「言えてないよ！」みんなで大はしゃぎして遊べる一冊です。



『お話を運んだ馬』I. B. シンガー (岩波書店)

お話の名手ナフタリは愛馬とともに町や村をまわり、子どもたちに物語の楽しさを伝え歩きます。このナフタリこそ、作者の理想の自画像です。まぬけばかりの町のこっけい話など8編。ポーランド生まれ、ノーベル賞作家の著者によるものがたり。 (対象年齢；中学年～)



『時をかけるゆとり』朝井リョウ (文藝春秋)

就職活動生の群像『何者』で戦後最年少の直木賞受賞者となった著者。初エッセイ集では天与の観察眼を縦横無尽に駆使し、上京の日々、バイト、夏休み、就活そして社会人生活について綴る。「ゆとり世代」が「ゆとり世代」を見た、切なさとおかしみが炸裂する23編。「圧倒的に無意味な読書体験」があなたを待っている!?



『もものかんづめ』さくらももこ (集英社)

「こんなにもおいしい本があったのか！」と小学生からお年寄りまでを笑いの渦に巻き込んだ爆笑エッセイの金字塔!! 著者が日常で体験した出来事に父ヒロシや母・姉など、いまやお馴染みの家族も登場し、愉快で楽しい笑いが満載の一冊です。



『祖母姫、ロンドンへ行く!』榎野道流 (小学館)

「お姫様のような旅行がしたい」という80歳超えの祖母の願いを叶えるため、家族はロンドンへ! 五つ星ホテルにアフタヌーンティー、大英博物館にオリエント急行…。祖母の夢をかなえるために奮闘する家族の姿が、温かさで笑いに満ちた筆致で描かれる。これは、ただの旅行記ではありません。老いゆく人の夢を叶えること、文化に憧れる気持ち、家族の連携の尊さ—それらが、ユーモアを通して静かに心に沁みてきます。